

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000838		
法人名	有限会社 優春		
事業所名	グループホーム くれよん		
所在地	小樽市長橋5丁目13番4号 (電話) 0134-22-1920		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年7月15日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】 (21年 6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円		その他の経費(月額)		光熱水費 25,000 円
					暖房費(11～4月) 5,000円
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,300 円		

(4) 利用者の概要 (6月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2	名	要介護2	9	名	
要介護3	5	名	要介護4	1	名	
要介護5	1	名	要支援2	0	名	
年齢	平均	85.2 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院、石橋病院、石井歯科医院、板谷内科胃腸科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームを運営する法人は、他にグループホームを1ヵ所、小規模多機能型ホームを1ヵ所運営しており、職員はもとより利用者間の交流が盛んに行なわれています。近隣は子供が少ない反面、老人世帯が多いことから運営者は率先して老人の福祉問題に取り組んでいます。職員と利用者が一緒になって町内会館の清掃や公園の美化に当たるなど、地域にとけ込んでいる様子が十分観えます。介護度が高い利用者を擁している中、職員の明るさが一段と眼に付きます。利用者への質の高いサービスが行なわれており、職員間の仲の良さ、信頼感に結ばれた職場であると実感しました。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題では、「思いや意向の把握」と「栄養摂取や水分確保の支援」が解決されていますが、「評価の意義と理解」と「同業者との交流を通じた向上」では今一度改善への取り組みが必要です。「改善計画シート」の採用により具体的な計画の取り組みを期待します。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員に提示しながら、日頃のサービス提供について振り返り作成されていますが、両ユニットで同じ内容が多く、自己評価はユニット毎で検討し、作成された評価こそ今後の対応に資する意義あるものと思慮します。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>毎回同じ出席者により2ヵ月毎に定期的開催し、運営者も欠かさず出席して熱心な会議と推測できますが、会議内容を見直し、ホームの現況や行事の様子や行事計画の報告、自己評価や外部評価での課題取り組みなど具体的な提案、協議がされるよう出席者も固定せず会議の活性化への取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や要望、苦情などは家族の来訪時や電話での会話の中から聞き取ろうとしています。会話から得た内容が記録されていない状況が気になります。面談メモ帳、連絡帳なりの整備を行ないながら、職員間で共有を図りながら、ホーム運営に反映させる取り組みを期待します。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の中であってこそ利用者の暮らしが豊かになるという運営者のポリシーが職員にも徹底されています。老人世帯の多い近隣の中で、ホームが率先して行事や勉強会を企画し、住民参加を呼び掛けるなど連携への取り組みは特筆できます。これからも地域の一員として、また地域のオピニオンリーダーとしての活躍を期待します。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームで暮らす利用者及び職員全てが、地域の一員として生活をするという運営者の思いがストレートに描かれた運営理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日々の関わりの中で、理念への追求を行なっています。また、会議を通して再確認の作業も行なわれ、理念の共有と実践が続けられています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者の積極的な姿勢が地域との付き合いの度合いを多くしています。近隣の地区会館や公園の清掃を利用者と一緒に参加し、ホームの夏祭りや文化祭に町内の方々に声掛けし、参加していただくなど交流の場を設けています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み作成し、サービスの見直しに役立っています。今後は自己評価や外部評価での改善項目を具体的に取り組むため「改善計画シート」を採用し、より効果的な取り組みを行なう予定です。		

小樽市 グループホーム くれよん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に運営推進会議が開催されていますが毎回同じ5名の出席者で地域包括センターの出席もありません。出席者の意見など議事録で推し測ることができますが、ホームの現況、利用者の状況、行事の内容や外部評価の公開など資料に基づいた会議の内容が不明です。	○	参加者の構成を検討し、会議内容もホームの現況や利用者の様子、行事の取り組み、自己評価の内容や外部評価での改善に向けた取り組みを提示しながら、参加者がモニター役を担うなど、サービスの質の向上を図る協働の取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が行なう調査やアンケートには協力を惜しまずに対応しています。これからは運営推進会議の内容やホームの状況を具体的に伝えながら、連携を密にしてサービスの質の向上を図る取り組みが予定されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行され家族のもとに送られる「くれよん通信」には、利用者一人ひとりに対するお便りが描かれて、家族の安心を得ていますが、写真の羅列が過ぎるなど、紙面に改善の余地が見られます。	○	家族へホームの状況を知らせることは重要です。定期発行の「くれよん通信」の紙面を有効利用して、利用者の写真に加え、ホームの現況、職員の異動の様子、外部評価での課題への取り組みなど掲載して、家族とのコミュニケーションがより深まる内容の取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、または電話による報告の際に意見や要望を聞くように職員の配慮が見られますが、記録が不備な為に貴重な意見も失念する場合があります。また、窓口に設置の「意見箱」も十分活用されていません。	○	管理者、職員は家族との話し合いの折には、内容を連絡帳にメモするなど、大切な情報として扱う必要があると思慮します。内容によっては即座に職員で共有しながら、サービスの質の向上につなげる取り組みが望まれます。また、「意見箱」も工夫して利用を高めるアイデアも必要です。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	系列ホーム間で、4月に若干の異動があり、それ以外は職員の移動が少ない状況です。この系列ホーム間では共同行事も多く取り入れ、また、散歩での訪問交流もあるなど、利用者にとって馴染みの関係作りに配慮されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	これまで毎月開催されていた職員の資質向上を目的とした内部研修は、最近中断されているようです。外部研修の参加も管理者だけと偏りが見られます。参加、受講の情報や資料も職員間で十分な共有が不足していると思慮します。	○	職員の資質向上はサービスの質の向上に反映されることを考慮し、内部研修は勿論、職員個人のスキルに合わせた外部研修の受講に積極的な取り組みを期待します。研修内容は職員が共有し、年間計画を立て、受講意欲の奮起も促しながら機会の確保への取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列ホーム間での交流は盛んに行なわれていますが、他同業者との交流はグループホーム連絡協議会の場に限るようで、相互訪問や勉強会などの交流には至っていません。	○	他同業者とネットワークを作りながら、職員の相互訪問や共通問題の勉強会などを通してサービスの質の向上を図ることは重要であり、取り組みを期待します。グループホーム連絡協議会の場では、相互のネットワーク作りの具体的な作業に着手する必要があると思慮します。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に納得していただけるよう、入居に際してはホーム見学や昼食を共にするなど、できる場合は体験をしていただき、雰囲気馴染んでいただくよう、サービスの提供を心がけています。入居後も馴染みの関係作りを大切にしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いや不安を察知しながら、適切に対応できるよう努めています。利用者に対し人生の大先輩であることを認識しながら、調理のコツを教えていただくなど、共に支え合う関係作りをしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりがどのような暮らしを望んでいるかを、普段の関わりの中から把握しています。利用者同士の会話を傾聴することで思いが把握できる場合があり、それらを職員間で共有してサービスの提供に反映させています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居当初は、家族からの情報や病院からのデータにより暫定的な介護計画を立てています。また、十分なアセスメントにより、利用者にとってより良い暮らしが継続可能な介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヵ月を期間として行なわれますが、利用者の状況によっては随時、家族の意見や要望を取り入れながら計画が見直されています。日常的にモニタリングが続けられ細やかな記録が行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院などは、家族の事情もありホームで送迎をしています。要望があれば利用者の買物や墓参りなども職員が同伴するなど、柔軟な対応が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医へ通院する利用者が若干おり、職員は状況の報告や同伴、送迎の支援をしています。また、通院が困難な利用者には協力医の往診への移行も家族と相談の上行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新規に入居する利用者には、予め重度化に向けた指針を説明して同意をいただいています。既存の利用者には状態が変化した段階で、家族や医師を交えた協議が行なわれています。既に看取りの体験もあり、事態に即した方針を職員間で共有するよう努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや口調、振る舞いは、利用者一人ひとりをとても大切にしている様子を見ることができます。玄関ロビーに置かれた訪問者の名簿も、個別に記入し投函するシステムがとられています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れはありますが、利用者本位のペースで起床や食事時間も柔軟に対応しており、利用者の暮らしの流れが尊重され継続されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、各ユニットの職員が協議して作っています。誕生会や行事の場合は利用者の希望を聞きながら、ユニット独自のオリジナル献立が作られています。職員も一緒に楽しい会話の中で進められ、利用者がゆっくりと時間をかけ、残さずに食べる様子がとても印象的です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	このホームでは、夜間入浴が主体となって進められています。利用者の希望によっては昼間の入浴やシャワー浴の場合もあり、ゆったりと広い浴室は利用者と職員の良きコミュニケーションの場となっています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの中での役割りとして居室の清掃、リネン交換、女性は食事作りや後片付け、男性は花壇の水遣りや食事のメニュー書きなどを受け持っていただきます。ボランティアの指導で絵葉書の作成も楽しみながら行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の時には近隣での散歩が行なわれます。公園に行ったり系列ホームに立ち寄って交流を深めています。温泉への一泊旅行は好評で、利用者の体調を考慮して続ける予定です。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関は日中は施錠せず開放されています。夜間のみ防犯のため午後8時以降は施錠しています。1階、2階のユニットは常に開放され、利用者の相互交流が行なわれています。		

小樽市 グループホーム くれよん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含め年2回の避難訓練が行なわれています。近隣の住民にも声掛けを行ない参加協力をお願いしています。ホームではAEDの操作を含む救急救命の訓練も実施して災害対策に備えています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーなどの栄養バランスは、協力医療機関の管理栄養士の指導をいただいて、利用者の体調に合わせた食事の提供が行なわれています。1日のカロリー摂取はおおよそ1,500カロリー、水分の摂取量はおよそ1,300ccを目標として支援しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての共有空間は広々としており、その中で暮らす利用者にとってゆったり感に浸れる場となっています。冬季間の乾燥防止のためのタオル掛け用パイプ、外気浴に適したデッキ、家族の宿泊に備えた和室など、運営者の気配りが随所に覗えます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、壁側に押し付けるベットの配置ではなく、利用者それぞれの体調に合わせた機能的な配置が見られます。収納スペースも大きく居室内の整理に役立っており、利用者は居心地よい居室の中で静かな暮らしが継続されています。		

※ は、重点項目。